

平成18年度「福井元気宣言」推進に係る政策合意の取組結果

(平成19年3月末現在)

「福井元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成18年4月に知事と合意をした「政策合意」の取組結果について、次のとおり報告します。

平成19年3月

産業労働部長 須藤 治

I 総括コメント

- ものづくり産業の振興については、産学官が連携し、「先端マテリアル創成・加工技術」や「レーザ高度活用技術」の研究分野を中心に、市場が求める最先端技術の開発を進めました。また、トヨタ自動車および関連企業約650社に対し、本県の56社・機関が参加し新技術・新工法等の展示商談会を開催しました。さらに、「実は福井の技」の冊子を作成し、国内外に向け本県のものづくり技術を発信し、県内企業の新事業展開や技術連携を促進するとともに、小学生向けの小冊子も作成し子供達にも本県産業の魅力を広くPRしました。
- 企業誘致については、将来性の高い企業などの誘致に取り組んできた結果、「榊TFC(巴川ファインコーティング)」や「ファーストウッド(株)」など、平成18年は前年より5社多い36企業が立地し投資額は約1,400億円、雇用予定は約900人となりました。
- 観光の振興については、観光プロデューサーを中心に観光事業者、観光協会、市町と意見交換・助言を行うなど、観光地の魅力づくりを進めました。これにより、各地の意識が高まり、東尋坊の夕陽イベントの開催など新しい動きが出始めたほか、新しい旅行商品なども数多く企画されました。また、教育旅行で本県を訪れた小・中学生は6,627人(対前年度比26%増)、また、東アジアからの観光客は4,871人(対前年度比55%増)となるなど目標を上回りました。
- 雇用対策については、ふくいジョブカフェにおいて、フリーター、学生等に対しきめ細かな就職支援を行い、就職者数は前年度比約17%増の1,387人となりました。また、若年無業者(ニート)を対象とした総合相談窓口「ふくい若者サポートステーション」を8月に開設し、18人の就労がありました。さらに、首都圏の大学等を精力的に訪問しUターン就職を促進したほか、新たに「ふるさと企業魅力発見フェア」の開催や若者就職ナビ「働くなら、福井」の開設を行い、若年労働者の確保に努めました。
- 県内の景気は、製造業を中心に全体としては緩やかな回復傾向にあり、雇用失業情勢も完全失業率が全国一低く推移し、有効求人倍率も平成5年以来13年ぶりの水準(1.42倍)となっていますが、業種間や企業間、地域間で差の広がりが見られる中で、今後は、より多くの方が景気回復を実感できるよう、地域経済全体の活性化を図るために、地域資源を活用した産業の振興や若年労働力の確保・産業人材の育成に力を注いでいきます。
- また、本年度、経済社会活性化戦略会議において、①地場産業の振興、②東アジア・マーケット開拓戦略、③観光の振興、④健康長寿関連産業の創出・育成、⑤雇用の質の向上について議論し、各テーマごとに、「5年後に目指すべき将来像」や戦略、67施策131項目にわたる具体的な提言を受けました。今後は、この提言を具体的な施策に進化させ、関係機関と連携を図りながら着実に実施することにより、本県経済の持続的かつ安定した成長の実現につなげていきます。

II 「政策合意」の取組項目に係る結果について

- 別紙「平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)」のとおり

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>○重点項目</p> <p>1 産力強化</p> <p>「最先端技術のメッカづくり基本指針」に基づき、最先端技術の創造を目指す5つの技術分野で設置した研究会に県外企業・大学等の参加を図り、国の競争的資金を活用しながら新技術の実用化に向けた研究を推進し、有望市場分野における産業クラスターの形成を促進します。</p> <p>〔研究会へ参加する県外企業・大学等の数 33企業・大学等 うち新たに参加する県外企業・大学等の数 20企業・大学等〕</p>		<p>〔成果等〕 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>「最先端技術のメッカづくり基本指針」に基づき、有望市場分野における産業クラスターの形成を促進するため、県外企業・大学等に対して、5つの技術分野の研究会への参加を促進しました。しかし、企業の希望により、5分野の研究会以外の個別テーマの産学官共同研究に参画したケースもあり、目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>今後も、県外の企業・大学等に対し、研究会のみならず個別のテーマを設定した産学官の共同研究への参画を促進し、新しい技術の実用化に向けた研究を推進していきます。</p> <p>〔研究会へ参加する県外企業・大学等の数 24企業・大学等 うち新たに参加する県外企業・大学等の数 7企業・大学等〕</p>	
<p>国内大手企業において、県内中小企業の優れた新技術、新工法、自社開発製品等の展示商談会を開催し、販路開拓や新ビジネス展開などの事業活動の活性化を図ります。</p> <p>〔展示商談会出展企業等数 50社〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内企業の販路開拓や新ビジネス展開などの事業活動の活性化を図るため、トヨタ自動車本社(愛知県豊田市)において、11月9日、10日の2日、トヨタ自動車およびその関連企業に対し、県内中小企業の優れた新技術・新工法等の展示商談会を開催しました。</p> <p>〔展示商談会出展企業等数 56社・機関 来場者数(2日間) 約2,600人 商談件数(2日間) 669件〕</p>	
<p>伊藤忠商事との「先端技術分野における戦略提携」に基づき、引き続き共同で県内企業の技術開発のサポートや製品のマーケティング、販路開拓などの支援を行うとともに、新たに優れた技術を有する企業を発掘します。</p> <p>〔伊藤忠商事との共同支援件数 11件 うち18年度新規支援件数 4件〕</p>		<p>〔成果等〕 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>伊藤忠商事と共同して県内個別企業の技術開発のサポートや製品のマーケティング、販路開拓などの支援を行ってきました。なかでも、曲面印刷技術は、携帯電話の表面印刷に採用されるなどの成果がでています。</p> <p>また、平成18年10月、伊藤忠商事との「先端技術分野における戦略提携」を今後2年間継続することに合意しました。</p> <p>一方、伊藤忠商事と県内企業では、様々な個別の調整が行われていますが、ビジネス段階にいたっているものの件数としては、目標に達しませんでした。今後も、県内企業のサポートやマーケティングを支援していきます。</p> <p>〔伊藤忠商事との共同支援件数 7件 うち18年度新規支援件数 0件〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>「福井県知的財産活用プログラム」に基づき、ものづくりにおいて重要な知的財産に関する意識啓発や、県内の公設試験研究機関や大学等有する特許等の県内企業への活用を促進し、競争力の強化を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>知的財産に関する意識高揚のためのセミナーなどを6回開催しました。 また、県内企業の競争力を強化するため、県内の公設試験研究機関や大学等有する特許等の県内企業への活用を促進しました。</p>	
<p>知的財産セミナー参加者数 300人 国内特許出願件数 1,000件 県内公設試験研究機関の特許等実施許諾件数 20件</p>		<p>知的財産セミナー参加者数 360人 国内特許出願件数 平成19年10月公表 県内公設試験研究機関の特許等実施許諾件数 23件</p>	
<p>2 積極的な企業誘致の展開 本県経済の活性化に大きく寄与する優良企業の誘致を進めるため、「アタック500」をスローガンに「福井の営業マン」としての気概を持ち、先端技術産業や地元への波及効果の高い企業を中心に、企業誘致アドバイザーや市町、電力事業者等と連携を図り、積極的に誘致活動を行います。 また、進出企業へのフォローアップを強め、県内での増設や関連企業の誘致を強力に働きかけます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>「アタック500」をスローガンに、企業誘致を行った結果、「㈱TFC(巴川ファインコーティング)」「ファーストウッド㈱」「㈱Hitzハイテクノロジー」などの工場新增設につながりました。 立地企業数は36社で、投資額は約1,400億円、雇用予定数は約900人となりました。</p>	
<p>企業訪問 延べ600社 立地企業件数 30社</p>		<p>企業訪問 延べ664社 立地企業件数 36社</p>	
<p>3 ビジットふくい 全部局で取り組む「ビジットふくい」の推進に加え、観光事業者、観光関係団体や市町と連携して、新たに四半期ごとに主要な観光地の入込客数を調査するほか、現場に出向いて観光客の声を直に聴き取るなど、観光に関する正確な数字や観光地の評価を収集・分析し、明確な目標をもった観光施策を推進します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>市町や観光事業者、観光関係団体と連携して、四半期ごとに主要な観光地の入込客数を調査するほか、季節ごとに現場に出向いて観光客の声を直に聴き取り、観光客の意見・要望については各市町・観光協会に連絡し、改善を要請しました。</p>	
<p>観光地実態調査 10地域 延べ60回</p>			
<p>(社)福井県観光連盟は現地に出向き、観光事業者、観光協会、市町との結びつきを強め、「売れる旅行商品」の開発を促進するとともに、観光プロデューサーの専門的ノウハウを十分活用して、魅力ある観光地づくりに取り組みます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>(社)福井県観光連盟が観光事業者・観光協会等と調整し、「恐竜の化石発掘体験プラン」や「幻の魚クエを楽しむ旅」などの旅行商品の開発を行いました。また、観光プロデューサーのノウハウを活かして観光事業者等に助言を行いました。</p>	
<p>観光プロデューサーによる相談・助言等件数 200件</p>		<p>観光プロデューサーによる相談・助言等件数 208件</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>民宿集積地域や伝統的工芸品産地の活性化や観光客の誘致拡大を図るため、意欲的な民宿組合等が行う新たな魅力向上のための観光プランや越前和紙や越前焼などの本格的な体験教室を組み入れた旅行商品の開発、伝統的技法による土産品の開発等を支援します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>(社)福井県観光連盟が各地域に出向いて民宿経営者や産地組合と協議を重ね、民宿組合等が行う地酒や地魚など地域の特徴を取り入れた新たな食事メニューの企画、越前和紙や越前焼などの本格的な体験教室を組み入れた旅行商品の開発を支援しました。</p>	
<p>〔 民宿集積地域を組み入れた新たな旅行商品の開発 3地域で5商品 宿泊を伴う本格的な体験教室の参加人数 80人 産地組合が土産品を開発 5品目 〕</p>		<p>〔 民宿集積地域を組み入れた新たな旅行商品の開発 3地域で5商品 宿泊を伴う本格的な体験教室の参加人数 80人 産地組合が土産品を開発 5産地8品目 〕</p>	
<p>陶芸館については、越前焼の振興と丹南地域における産業観光の拠点として利用者の増加を図るとともに、施設の管理・運営の方法も含めて、そのあり方を検討します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>東京、大阪、名古屋の陶芸教室や大学等を直接訪問し、体験教室や合宿の利用をPRしたことや、団体客の利便性向上のため旅行クーポンを導入したことにより、入館者数が増加しました。</p>	
<p>〔 入館者数 30,000人 〕</p>		<p>〔 入館者数 31,234人 陶芸教室等訪問数 13ヵ所 〕</p>	
<p>観光地におけるホスピタリティ(もてなしの心)を醸成し、サービスの向上を図るため、「語り部」や通訳ボランティアガイド、エコ・グリーンツーリズム・インストラクターなどの育成、登録を進めるとともに、観光関連従事者のサービスの質の充実に努めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>JR福井駅構内において県内各地の観光ボランティアガイドが日頃の活動成果を発表する「語り部発表会」や各種の研修会を開催し、観光客と直に接する人材の育成・登録を進めました。こうした方々の活躍の場の拡大を図るため、旅行会社や観光事業者によるボランティアガイド等の活用について、働きかけを行いました。また、研修会を開催し、観光関連従事者のサービスの質の充実に努めました。</p>	
<p>〔 「語り部」や通訳ボランティアガイドなどの登録人数 600人 「語り部」や通訳ボランティアガイドなどの活動件数 600件 観光関連従事者の研修参加者数 30人 〕</p>		<p>〔 「語り部」や通訳ボランティアガイドなどの登録人数 650人(2月末現在) 「語り部」や通訳ボランティアガイドなどの活動件数 1,196件(2月末現在) 観光関連従事者の研修参加者数 66人 〕</p>	
<p>将来のリピーターとなる小中高校生を確保するため、中京・関西地区など大都市圏を主なターゲットとして教育旅行の誘致を推進します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>県外の小中学校等を積極的に訪問し教育旅行の誘致を行った結果、本県を訪れた児童生徒が増加しました。</p>	
<p>〔 県外小中学校等訪問件数 延べ110件 県外からの教育旅行(体験学習)者数 5,300人 〕</p>		<p>〔 県外小中学校等訪問件数 延べ119件 県外からの教育旅行(体験学習)者数 (岐阜・大阪・滋賀・長野・愛知) 6,627人(60校) 〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>東アジアからの観光客誘致拡大を図るため、近隣府県との連携を強化し、広域観光ルートの開発や観光商談会等を通じた誘客を推進します。</p> <p>また、海外事務所においても旅行エージェントを訪問し、本県の魅力をPRするなど、観光客の誘致活動を積極的に展開します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>近隣府県と連携し広域観光ルートの開発や観光商談会等を通じた誘客を推進するとともに、海外事務所においても積極的に旅行会社を訪問するなど、誘致活動を展開した結果、東アジアからの観光客数が増加しました。</p>	
<p>〔助成制度により誘致する東アジアからの観光客数 4,000人 うち海外事務所誘客分 3,000人 海外マスコミの招へい・観光商談会の参加社数 70社〕</p>		<p>〔助成制度により誘致する東アジアからの観光客数 4,871人 うち海外事務所誘客分 3,436人 海外マスコミの招へい・観光商談会の参加社数 124社〕</p>	
<p>4 15,000人の雇用創出</p> <p>「若者就職支援センター(ジョブカフェ)」において、県内の経済界や公共職業安定所と一体となって、職業教育から就職、職場定着まで一貫したフリーター、学生等のきめ細かな就職支援を行います。</p> <p>また、利用者の利便性向上を図るため、県内9か所のミニジョブカフェにおいて、カウンセラーによる相談や学校への出前カウンセリングを行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>経済産業省のモデル事業および若者・中小企業ネットワーク構築事業の採択を受け、フリーターや学生等への相談から就職までのきめ細かな就職支援はもとより、人材確保に苦慮している中小企業と若者との出会いの場づくりを行うなど、若者がより就職しやすい環境づくりを行いました。</p>	
<p>〔ジョブカフェ利用の就職人数 1,300人(学生含む)〕</p>		<p>〔ジョブカフェ利用の就職人数 1,396人(学生含む)〕</p>	
<p>若者の再就職やフリーターの安定した就職を図るため、講義と企業実習が一体となった職業訓練(デュアルシステム)を拡充するとともに、新たに職場におけるコミュニケーション能力の向上や基礎的なビジネスマナーの習得を図る講座を実施し、就職を支援します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>中高年齢者向けの再就職支援セミナーや若年未就職者を対象とした職業訓練「デュアルシステム(委託訓練活用型)」を実施しました。</p> <p>また、若者の就職やキャリアアップのための基礎的な能力向上講座を開催し、現在、受講修了者の就職支援を継続しています。</p>	
<p>〔中高年齢者の再就職支援セミナー参加者 620人 デュアルシステムによる訓練受講者の7割就職 基礎能力向上講座受講者の5割就職〕</p>		<p>〔再就職支援セミナー参加者 685人 デュアルシステム就職率 80.0% (訓練受講者数 50人、就職者数 40人) 就職基礎能力向上講座(計3回)就職率 55.8% (講座受講者数 43人、就職者数 24人)〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>県内企業が求める優秀な若年労働力を確保するため、東京、大阪の福井Uターンセンターにおいて、3大都市圏の大学等を積極的に訪問します。</p> <p>また、新たにメールマガジンや民間の就職支援サイトを活用し、本県出身者や本県への就職に関心を持つ県外大学生等の本県への就職を促進します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>東京、大阪の福井Uターンセンターを中心に、首都圏、近畿圏、中部圏の大学等を積極的に訪問し、本県出身学生のUターン就職を呼びかけました。</p> <p>また、メールマガジンを発行するとともに県内企業の魅力をより知ってもらうための企業説明会を開催しました。さらに、新たに開設した県のホームページ「働くなら、福井！若者就職ナビ」や民間の就職支援サイトを活用して広くUターン就職を促進しました。</p>	
<p>〔Uターン就職人数 55人〕</p>		<p>〔Uターン就職人数 63人 企業説明会「ふるさと企業魅力発見フェア」の開催 (19年1月5日 県営体育館 882人参加) 「働くなら、福井！若者就職ナビ」の開設(10月31日)〕</p>	
<p>○個別項目</p> <p>1 新たな地域産業活性化策や企業支援策</p> <p>県内の景気や雇用の回復基調を確かなものとし、少子高齢化社会における本県経済の持続的な発展を図るため、各業界の現状、市場、将来展望等を踏まえ、繊維や眼鏡産業などの新たな展開に向けた地域産業活性化策や、新事業や経営革新等に取り組む企業への支援策を検討します。</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>県内企業の実態を把握するとともに今後の施策の企画に資するため、県内企業を直接訪問し、延べ約600社のトップや担当部署の方から、現況や課題、雇用の実態、県に望むことなどを聴取しました。</p> <p>今後、訪問によって得られた情報や経済社会活性化戦略会議からの提言を踏まえ、繊維・眼鏡産業をはじめとする地場産業の活性化に向けた事業の展開に努めます。</p>	
<p>引き続き「経済社会活性化戦略会議」を開催し、「挑戦(チャレンジ)ふくい」の着実な推進を図るとともに、「元気な産業」を創造・育成していくために、社会経済情勢の変化を踏まえた提言を具体的な施策に反映していきます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>経済社会活性化戦略会議を5回開催し、次の5つをテーマに議論を重ね、67施策131項目の提言を受けました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産業の振興 ・東アジア・マーケット開拓戦略 ・観光の振興 ・健康長寿関連産業の創出・育成 ・雇用の質の向上 <p>今後は、取り組める項目から県の施策として事業化していくほか、民間団体、企業等へも働きかけていきます。</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>2 新しい技術開発による産業の高付加価値化</p> <p>企業における新技術や新製品開発を促進するため、企業訪問による共同研究の提案やセミナーの開催、県内大学との共同研究に対する支援などにより、産学官共同研究を推進します。</p> <p>また、工業技術センターでは、県内企業の身近な研究パートナーとして、企業ニーズに対応した共同研究を行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>企業における新技術や新製品開発を促進するため、企業訪問による共同研究の提案やセミナーの開催、県内大学との共同研究に対する支援などにより、産学官共同研究を実施しました。</p> <p>また、工業技術センターでは、県内企業の身近な研究パートナーとして、企業ニーズに対応した共同研究を行いました。</p>	
<p>〔18年度から行う産学官共同研究に参加する企業数 40社 うち新たに参加する企業数 20社 産学官共同研究に参加する企業数(累計-目標:2倍以上) 151社〕</p>		<p>〔18年度から行う産学官共同研究に参加する企業数 92社 うち新たに参加する企業数 42社 産学官共同研究に参加する企業数(累計-目標:2倍以上) 283社〕</p>	
<p>工業技術センターをはじめとする試験研究機関において、繊維や金属加工、バイオテクノロジーなど本県が有する優れた技術を基にした先端技術開発を行います。</p> <p>また、開発した技術の企業等への移転を積極的に行うとともに、企業における事業化に向けた取組みを支援します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>工業技術センターをはじめとする試験研究機関において、繊維や金属加工、バイオテクノロジーなど本県が有する優れた技術を基にした先端技術開発を行いました。</p> <p>また、開発した技術の企業等への移転を積極的に行うとともに、企業の事業化に向けて支援しました。</p>	
<p>〔試験研究機関の特許出願件数 20件 事業化研究支援企業数 7社〕</p>		<p>〔試験研究機関の特許出願件数 23件 事業化研究支援企業数 7社〕</p>	
<p>工業技術センターの役割や研究、施設等を広く県民や企業にPRするため、施設の一般公開や研究成果発表等を効果的に行います。</p> <p>また、センターが保有する特許やノウハウを積極的に県内企業に利用してもらうため、研究者や研究実績等を紹介するホームページの充実や嶺南への出前相談など、より親しみやすく利用しやすい研究機関を目指します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>工業技術センターの役割や研究、施設等を広く県民や企業にPRするため、施設の一般公開や研究成果発表等を積極的に行いました。</p> <p>夏休み期間中には、県内の小中学生を対象に「夏休み親子科学技術体験教室」を初めて開催しました。</p> <p>センターが保有する特許やノウハウを積極的に県内企業に利用してもらうため、研究者や研究実績等をホームページ等で紹介した他、嶺南地域(敦賀市、小浜市)で1日工業技術センターを開催しました。</p>	
		<p>〔工業技術センター一般公開来場者数 1,860人 夏休み親子科学技術体験教室参加者数 約100人 1日工業技術センター参加企業数 36社〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>県内企業の新事業展開や企業間の技術提携を促進するため、身近な生活の中にある「実は福井」の技と誇ることができるものづくり技術やその技術を活かし作られた製品の情報等を収集し、冊子、ホームページ、講演等により県内外に広く発信します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内企業の新事業展開や企業間の技術提携を促進するため、優れた技術やその技術を活かし作られた製品の情報等を収集し、『「実は福井」の技』としてとりまとめ、冊子(2,000部)、ホームページ等により県内外に広くPRしました。</p> <p>また、次代の福井を担う子供たちにも福井の技術、企業について興味を持ってもらうため、小学校5年生を対象とした冊子(「実は福井」の技キッズバージョン、10,000部)を作成し配布しました。</p>	
<p>3 やる気のある企業や創業に対する強力なバックアップ</p> <p>(財) ふくい産業支援センターに、企業経営に精通したプロジェクトマネージャー等を引き続き配置するとともに、商工会議所等との連携強化を図り、「5,000の新規創業」を達成します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>民間企業で豊富な経験を持ち、企業経営に精通したプロジェクトマネージャー、サブマネージャーを引き続き配置するとともに、商工会議所との連携を強化し、創業支援を行って来ました。開業特別支援資金の利用が少なかったことから一部目標を達成できなかった項目もありますが、「5,000の新規創業」については、達成する見込みとなっています。</p>	
<p>〔ふくい産業支援センターの支援による新規創業 70社 プロジェクトマネージャー等の企業訪問 延べ300社 商工会議所等民間の支援による新規創業 200社 5,000の新規創業を達成(これまでの達成状況:3,824社(達成率76.5%))〕</p>		<p>〔ふくい産業支援センターの支援による新規創業 58社 プロジェクトマネージャー等の企業訪問 延べ376社 商工会議所等民間の支援による新規創業 200社(見込) 5,000の新規創業を達成 5,113社(見込)〕</p>	
<p>(財) ふくい産業支援センターのPRを充実するとともに、当センターと金融機関との連携を強化することにより利用企業数の拡大を図り、経営革新や、異なる分野の企業が連携して新たな事業展開を行う「新連携」に取り組む企業を創出します。また、地域ごとのきめ細かな企業支援を行うために、地域に出向いての経営相談を積極的に行います。さらに、事業に失敗して、再チャレンジを目指す事業者に対しても、きめ細かに対応します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>(財) ふくい産業支援センターのPRを積極的に行うとともに、金融機関との連携強化により、相談窓口の利用拡大と経営革新や新連携などセンターの持つ機能が十分活用されるようきめ細かな対応を行いました。その結果、相談窓口の利用件数全体としては目標を大きく上回りましたが、出張相談については、参加企業が少ない所もあり目標に達しませんでした。</p> <p>今後、金融機関とも連携し、出張相談のPRに努めていきます。</p>	
<p>〔総合相談窓口の利用 1,000件 経営革新承認 50社 新連携支援 2社 出張相談件数 50件〕</p>		<p>〔総合相談窓口の利用 1,511件 経営革新承認 65社 新連携支援 2社 出張相談件数 43件〕</p>	
<p>(財) ふくい産業支援センターと福井大学との連携等により、教官・学生向けの創業や経営のセミナーを開催し、大学で生まれた研究シーズ等を活用して創業する大学発ベンチャー企業を創出します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>(財) ふくい産業支援センターと福井大学との連携を図るとともに、経営セミナーを開催するなど大学発ベンチャー企業の創業支援を進めました。</p>	
<p>〔大学発ベンチャー企業の創業 5社〕</p>		<p>〔大学発ベンチャー企業の創業 5社〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>(財)ふくい産業支援センターにおいて、統合による産業支援機能の一元化の成果を十分に生かして、研究開発から事業化、経営革新まで様々なニーズに対応した効果的なサービスを提供し、やる気のある企業の成長・発展を促進します。</p> <p>また、女性企業家が抱える課題に対するきめ細かな助言・指導や異業種交流会等を通して、女性による創業を促進します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>(財)ふくい産業支援センターの産業支援機能を十分に活かして、様々なニーズに対応した効果的なサービスの提供に努めました。また、女性企業家へのきめ細かな助言・指導や異業種交流会等を開催し、女性による創業支援を進めました。</p>	
<p>〔販路開拓支援、経営戦略立案、技術課題解決等により売上等の成果をあげた企業 30社 女性の新規創業 5社〕</p>		<p>〔販路開拓支援、経営戦略立案、技術課題解決等により売上等の成果をあげた企業 31社 女性の新規創業 11社〕</p>	
<p>企業の即戦力となる人材を育成するため、福井県中小企業産業大学校において、企業の状況や人材育成ニーズに応じたオーダーメイド型研修を実施します。また、研修生の交流をコーディネートすることにより、新たなビジネスの展開に向けた企業のネットワークづくりを支援します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>福井県中小企業産業大学校において、人材育成の相談業務のPRに努めてきた結果、年度前半には相談件数が多くありましたが、年度後半から少なくなり、目標を達成することはできませんでした。</p> <p>一方で、企業の状況や人材育成ニーズに応じたオーダーメイド型の研修を実施したところ、目標数を超える企業の申込みがありました。また、研修生の交流会を開催し、新たなビジネスの展開に向けた企業のネットワークづくりを支援しました。</p>	
<p>〔人材育成に関する相談件数 200件 オーダーメイド型研修の実施件数 15件 研修生交流会への参加者数延べ120人〕</p>		<p>〔人材育成に関する相談件数 193件 オーダーメイド型研修の実施件数 21件 研修生交流会への参加者数 延べ153人〕</p>	
<p>開業特別支援資金を県内外に積極的にPRし、雇用創出効果の大きい製造業や情報サービス業を中心に、県内での創業を強力に支援します。また、新たな事業展開を目指す意欲的な企業に対して、産業活性化資金等を活用して積極的に支援します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>制度融資のPRに努め、新規性、独自性のある製造業や情報サービス業などを中心に掘り起こしを行ってきました。また、上記以外の業については、政府系金融機関の融資の活用を図ったことから、開業特別資金による創業は目標に達成しませんでした。</p> <p>一方、産業活性化支援資金を活用し、新たな事業展開を目指す意欲的な企業を積極的に支援しました。</p>	
<p>〔開業特別支援資金による創業支援 30社 産業活性化支援資金による支援 30社〕</p>		<p>〔開業特別支援資金による創業支援 8社 産業活性化支援資金による支援 31社(2月末現在)〕</p>	
<p>中小企業者の資金調達方法を拡充するため、証券化手法を活用した担保や保証人に依存しない新たな融資が金融機関において実施されるよう促進します。</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>中小企業者の無担保無保証での資金調達方法の多様化を進めるため、金融機関や産業支援機関と県の担当者による研究会を7回開催し、証券化手法を活用した市場型間接金融制度であるCBO(社債担保証券)の実施に向けた検討をしました。</p> <p>検討を進めている中で、福井信用金庫が中小企業金融公庫と協同してCLO(貸出担保証券)を実施しました。</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>「ふくい南青山291」の管理運営を行う㈱電通のノウハウやネットワークを活用して、県産品の販売促進、県内企業と首都圏企業のビジネスマッチング、首都圏のニーズに即した商品改良・企画商品の開発等に取り組めます。</p> <p>また、東京・大阪圏に設置したアドバイザーを活用して、県内企業の技術・ノウハウを活かした大都市圏企業との取引拡大のためマッチング等を実施します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>管理運営を行う㈱電通が創意工夫して、県産品の販売促進、県内企業と首都圏企業のビジネスマッチング等を進めるとともに、「福井」の魅力積極的にPRし、施設の利用促進に努めました。</p> <p>また、東京、大阪等の大都市圏にある企業との取引拡大のためのマッチング活動や展示商談会への出展を支援し、県内企業の取引拡大を進めました。</p>	
<p>〔ふくい南青山291の来館者数 48,000人〕</p> <p>〔ふくい南青山291の売上額 4,200万円〕</p> <p>〔ふくい南青山291における販路開拓等支援件数 10件〕</p> <p>〔東京・大阪圏などでの取引あっせん件数 250件〕</p> <p>〔うち成約・見積件数 50件〕</p>		<p>〔ふくい南青山291の来館者数 66,492人〕</p> <p>〔売上額 5,040万円〕</p> <p>〔ふくい南青山291における販路開拓等支援件数 12件〕</p> <p>〔東京・大阪圏などでの取引あっせん件数 288件〕</p> <p>〔うち成約・見積件数 56件〕</p>	
<p>情報サービス産業を育成するため、産学官連携による福井発の独自ソフトウェア開発を支援します。</p> <p>また、新たに県内IT関連企業の先端技術等を学ぶ講座や学生等が就職相談を行うブログの開設、インターンシップ制度の活用などにより、人材の育成・確保を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>産学官連携によるソフトウェアの共同研究は、応募された中から特にアイデアが優れ、独自性の高い4グループに厳選し、高度なソフトウェアの研究に取り組みました。また、17年度の共同研究グループのうち、優秀な2グループがソフトウェアの実用化に向けた開発を行いました。</p> <p>さらに、秋に県内IT関連企業の先端技術等を学ぶ講座等を11回開催したほか、10月にIT関連企業への就業に関心がある学生等が気軽に就職相談できるブログサイトを全国で初めて開設し、目標を上回る学生が参加するなど、企業が優秀な人材を確保できるよう支援しました。しかし、企業の中には、人的な制約等によりブログ参加を見合わせる企業もあり、参加企業数は目標を達成できませんでした。今後、企業訪問等により参加を促し、参加企業を増やしていきます。</p>	
<p>〔福井発独自ソフトウェア開発に向けた企業・大学の共同研究 5件〕</p> <p>〔共同研究を踏まえたソフトウェア開発の取組み 2件〕</p> <p>〔ブログに参加する学生等数・企業数 約2,000人・40社〕</p> <p>〔県内IT企業技術講座またはインターンシップに参加する学生数 50人〕</p>		<p>〔福井発独自ソフトウェア開発に向けた企業・大学の共同研究 4件〕</p> <p>〔共同研究を踏まえたソフトウェア開発の取組み 2件〕</p> <p>〔ブログに参加する学生等数・企業数 約7,600人・38社〕</p> <p>〔県内IT企業技術講座またはインターンシップに参加する学生数 177人〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>4 まちづくりと一体となった商業の活性化</p> <p>中心市街地の商業活性化を図るため、空き店舗を活用した小さな区画での出店や週末だけの開業などの多様な出店形態を含めた魅力ある店舗の開業を市町と連携して支援します。</p> <p>また、学生と商店街関係者等が協働して実施する活性化の取組みに対して支援します。</p>	<p>〔空き店舗へ入居する事業者 25件 学生グループによる商店街活動事業の実践 3件〕</p>	<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>中心市街地の商店街の空き店舗への出店を、市町と連携して積極的に支援しました。特に、JRの新快速乗入れが実現した敦賀市では、多数の魅力ある店舗が出店しましたが、出店のための事前調整に時間を要するケースもあり、目標に達しませんでした。今後、迅速な出店に向けた調整、支援に努めていきます。</p> <p>街なかにごわいプランには県内外から20グループの応募があり、優秀なプラン5件を選定し、その実践成果の報告会を開催するとともに、支援を行いました。</p>	<p>〔空き店舗に入居する事業者 24件 (内訳:福井市 5件、敦賀市 18件、越前市 1件) 学生グループによる商店街活動事業の実践 5件 上記5件のほかに、3グループが自発的に活動を展開〕</p>
<p>まちづくり3法の改正案を踏まえ、新たな中心市街地活性化基本計画の策定に対する助言や情報提供などの支援を行い、中心市街地活性化に意欲的に取り組む市町を後押しします。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p>	<p>「中心市街地活性化懇話会」の提言を踏まえて、「コンパクトで個性豊かなまちづくりの推進に関する基本的な方針」を策定し、市町の中心市街地の振興方策や大規模集客施設の適正立地に関する措置などを明らかにしました。</p> <p>また、中心市街地活性化基本計画の策定に取り組む市に対し、検討委員会等に参画するとともに、国との連絡調整を行うなどの支援を行いました。</p>	<p>〔「中心市街地活性化懇話会」の開催(10/13～1/22 5回開催) 「コンパクトで個性豊かなまちづくりの推進のための提言」 「コンパクトで個性豊かなまちづくりの推進に関する基本的な方針」 の策定、公表(19年3月)〕</p>
<p>商店街の活性化と事業者の競争力強化を図るため、1店1品セールなどの商店街が一体となった1店1品運動の展開を促進するとともに、老舗等の地域資源を活用して商店街の個性や魅力を発信するなど、地域に親しまれる商店街づくりを推進します。</p>	<p>〔1店1品運動に取り組む商店街等 10か所〕</p>	<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>「ふくい1店1品の市」や消費者人気コンテストの実施を支援し、魅力ある商店街づくりに資する1店1品運動の展開を促進しました。</p>	<p>〔1店1品運動に取り組む商店街等 12か所 1店1品消費者コンテストの実施および発表会の開催 54品(49店)参加 発表会の開催 19年3月6日(火)〕</p>

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>5 海外との経済交流等の促進 海外事務所が前線基地となって、「東アジア・マーケット開拓戦略プラン」に基づき、本県企業の海外での展示商談会への出展等を支援するとともに、上海事務所ビジネスコーディネーターの利用を促進し、県内企業の販路開拓の支援や県産品の売込みを行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>展示商談会をマーケット開拓活動の最重点に位置付け、県内企業や業界団体を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井繊維中国展の開催 ・香港眼鏡展への出展 ・中国等の食品・清酒バイヤーとの商談会 <p>また、上海事務所ビジネスコーディネーターが県内企業を直接訪問し販路開拓の個別相談にも応じました。</p>	
<p>〔東アジアでの県内企業の商談件数 800件 東アジアでの県内企業の成約件数 80件 県内企業のビジネスコーディネーターへの相談件数 90件 18年度売込み品目 上海:眼鏡、食品 " 香港:米〕</p>		<p>〔東アジアでの県内企業の商談件数 1,061件 東アジアでの県内企業の成約件数 125件 県内企業のビジネスコーディネーターへの相談件数 91件 18年度売込み品目 上海:眼鏡(成約3件) 食品(日本食専門店と2月に成約) 香港:米 5,480kg〕</p>	
<p>中国以外の東アジア地域への関心の高まりや県内サービス業等新たな分野での進出の動きなど、経済情勢や県内企業の動向が大きく変化していることを踏まえて、「東アジア・マーケット開拓戦略プラン」の見直しを行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>最新の企業動向や国際経済情勢等を踏まえ、「新版 東アジア・マーケット開拓戦略プラン」を本年2月に策定しました。</p>	
		<p>〔「新版 東アジア・マーケット開拓戦略プラン」の概要 対象業種 繊維、眼鏡、機械・電気機器、化学、農産物 対象地域 東アジア全域(ASEAN、インドも含む) 主な内容 販路開拓とビジネスリスクについて戦略・手法等を提示 計画期間 平成18~22年度(5年間) 計画目標 東アジアへの新規輸出企業 50社(5年間)〕</p>	
<p>これまでに受け入れた技術研修員や友好大使、留学経験者との間で構築したネットワークを活用し、本県から海外に向けた情報発信や情報収集等を行うとともに、県に受け入れる国際交流員等を本県と海外との経済交流に活用します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>これまでに受け入れた技術研修員や留学経験者等と構築したヒューマンリソースネットワーク登録者137人に向け、本県の経済や観光等に関する情報をeメールでPRしました。また、県内企業からネットワーク登録者への照会を仲介し情報収集の支援も行いました。</p>	
		<p>〔情報発信 3回(7月 11月 19.2月) 情報収集 4件(情報提供者:友好大使 ベトナム1人、中国1人、 浙江省技術研修員2人)〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>魯迅と藤野巖九郎の関係を本県の知名度アップや中国との交流促進に活用するため、あわら市や北京魯迅博物館など関係団体、施設等との協力・連携を強め、「藤野先生の故郷・福井」を国内外に積極的にアピールします。</p> <p>（魯迅と藤野巖九郎に関する貴重な資料（「魯迅の医学授業ノート」レプリカ等）の入手と展示 講演会「再読・藤野先生（仮）」の開催</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>北京魯迅博物館、東北大学史料館やあわら市などとの協力・連携を得て特別展 再読「藤野先生」を開催し、本県あわら市出身の藤野先生や二人の人間愛、国際交流をアピールしました。</p> <p>また、特別講演会「魯迅と藤野巖九郎～そして日中関係を考える」や県内小中学生を対象とした書道コンクールを開催しました。</p> <p>その他、中国浙江省において、浙江電視台（福井放送と友好提携）が上記イベント録画を11月25日に放送しました。</p> <p>〔「魯迅の医学ノート」および「惜別写真」のレプリカの入手 特別展 再読「藤野先生」の開催 ・10月14日～29日 福井県国際交流会館 入場者12,822人 ・11月12日～26日 若狭図書学習センター 6,515人 特別講演会「魯迅と藤野巖九郎～そして日中関係を考える」の開催（聴講者 200人） 県内小中学生を対象とした書道コンクールの開催 ・応募作品3,290点。知事賞他特別賞8賞81人を表彰 ・受賞作・特選・奨励賞395点を国際交流会館で10月14日～22日展示</p>	
<p>6 敦賀港、福井港のポートセールスの推進</p> <p>貿易を行う企業の誘致や貿易振興団体と連携したポートセールスを推進し、敦賀港および福井港の利用企業数、取扱貨物量の増加に取り組めます。特に、足元の県内企業の利用が少ないことから、県内企業を重点に働きかけ、一層の利用促進を図ります。</p> <p>（企業訪問 延べ250社 敦賀港 コンテナ貨物の利用企業数 380社 取扱貨物量 10,500TEU 福井港 外航船入港隻数 110隻</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>企業へのポートセールスを積極的に行った結果、福井港については、外航船の入港隻数が昨年を大きく上回る実績となりました。</p> <p>一方、敦賀港については、用船料や燃料費の高騰による航路維持コスト増の影響により、韓国および中国との定期コンテナ航路が減便や休止となり、利用企業数および取扱貨物量とも目標に達しませんでした。</p> <p>今後、敦賀市や関係機関等と連携し、船会社に対し、敦賀港寄港を強く働きかけていきます。</p> <p>（企業訪問 延べ276社 敦賀港 コンテナ貨物の利用企業数 359社 取扱貨物量 8,104TEU 福井港 外航船入港隻数 192隻</p>	
<p>7 「ふくい2030年の姿」の具体化</p> <p>水を使わない環境にやさしい織物加工技術やプラズマ発生技術など、世界をリードする最先端技術に発展する可能性の高い、福井県の有する「他に真似できない技術」を国際的な学会等で発表し、福井の「みらい技術」を世界に向けて発信します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>工業技術センターにおける繊維やレーザー等に関する研究成果を国際学会等で発表するなど、福井の「みらい技術」を世界に向けてPRしました。</p> <p>（第12回レーザー光学会（6月26日～30日） 第8回国際超臨界流体シンポジウム（11月5日～8日） 第6回マイクロ波効果・応用国際シンポジウム（11月2日～4日） 第5回光学に関する国際学会（12月6日～8日）</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(産業労働部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部	氏名	須藤 治
取組項目		取組結果	
<p>県民が地域活動に参加する「福縁福井」に向けて、女性や「達年」をはじめとする多様な地域住民が、介護やまちづくりなどの地域課題を解決する地域助け合いビジネスへの参加を促進するため、事業実施者や事業化を計画している者との出会いの場を設けます。</p> <p>〔地域助け合いビジネスの県内事例およびビジネスプラン発表会への参加者数 100人〕</p> <p>〔地域助け合いビジネスに取り組む事業者 10社〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>地域助け合いビジネスに取り組む団体等の起業化に向けた「ビジネス塾」を開催し、地域住民が主体となった地域助け合いビジネスの推進を図った結果、取り組む事業者数については目標を達成しました。</p> <p>しかし、事業への参加・協力を考えている人との出会いの場となる「ふくい地域助け合いビジネス フォーラム」の参加者数については、目標を達成できませんでした。今後、多くの県民の方々に関心を持ってもらえるよう、さらにPRに努めていきます。</p> <p>〔「ふくい地域助け合いビジネス フォーラム」の開催 70人 (19年3月17日(土))〕</p> <p>〔地域助け合いビジネスに取り組む事業者 12社〕</p>	